



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	富士山デザインハウス・インマヌエル	BEE	1.4	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.3	/5		ふつう		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.0	/5		ふつう		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	4.0	/5		よい		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.2	/5		ふつう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例 4 以上	3 以上	2 以上	1 以上

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	3.3	
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ②大きな開口で積極的に昼光を利用。 ③カーテンやブラインドを採用。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤芝生による緑被率が24%、15種292本の植樹を計画。 ⑥敷地内の舗装面積比率を10%以下に抑えた。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦RC外断熱による高断熱化。 ⑧自然通風、ハイサイドライトによる自然エネルギーの利用。 ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪井戸水利用設備の導入による井戸水の有効利用。 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑭積極的な省エネルギー対策。 ⑮建物高さを抑え、ゆとりある配置とすることで、通風に配慮。 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制 LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 2.1.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.1.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.1.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.1.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.1.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.1.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒 LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善			
	"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	3.0
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑰豪雨などの災害時に雨水流出抑制対策として調整池を計画。 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備		
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑱バリアフリー法基準相当の計画。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) <ul style="list-style-type: none"> ㉑地域性のある材料を屋外に設置。 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ Q-3 3 3.1 ⑳ 地域性への配慮、快適性の向上		
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	3.2	
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤芝生による緑被率が24%、15種292本の植樹を計画。 ⑥敷地内の舗装面積比率を10%以下に抑えた。 ■敷地外環境対策 (⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑮建物高さを抑え、ゆとりある配置とすることで、通風に配慮。 	Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 2 ② ② まちなみ景観への配慮 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善			

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	富士山デザインハウス・インマヌエル	階数	地上1F
建設地	静岡県小山町須走	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域、法22条地域	平均居住人員	50人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年9月 予定	評価の実施日	2020年6月9日
敷地面積	24,645㎡	作成者	姫野
建築面積	3,129㎡	確認日	2020年6月12日
延床面積	2,922㎡	確認者	川西



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.4</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 100% (138 kg-CO₂/年・184)</p> <p>②建築物の取組み 84%</p> <p>③上記+②以外の 84%</p> <p>④上記+ 84%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 3.4</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.3</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.4</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.7</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.5</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.0</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>障害者支援施設のため、利用者の特性に配慮して素材の選定を行った。 個室によるプライバシーの確保と安全性を重視した。 これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。</p>		<p>その他</p> <p>0</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>大きな開口部により、自然採光や自然換気を積極的に行った。また、化学汚染物質をなるべく使用しない計画とした。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>部屋の広さや天井高の高さなど、ゆとりある空間を目指した。メンテナンスも考慮し、防汚性の高い素材を用いた。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>建物の高さを抑え、ゆとりある配置とした。地域性のある建材を屋外に用いた。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>自然採光のためにハイサイドライトを採用した。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>床材に有害物質を含有しない素材を用いた。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>雨水流出抑制対策として調整池を計画した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される